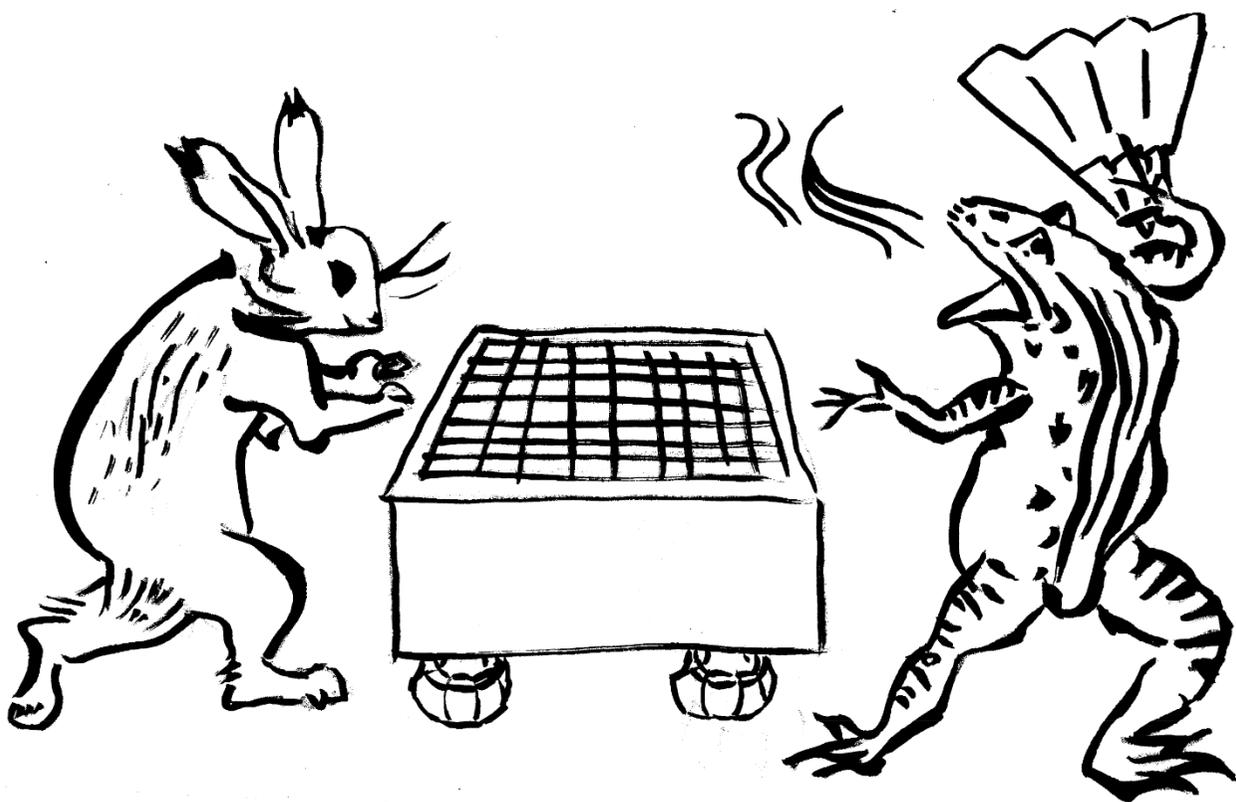


# 漢佳校 将棋部



## CONTENTS

奨励会員記	78回	松崎大和
嬉野流	79回	永見榛大
AIと将棋~その影響と問題の展開を中心として~	79回	ひきこもりもり
袖飛車のすゝめ	80回	椎茸
六七銀型角交換振り飛車	80回	石川大智
三間飛車&四間飛車対策~こいなぎ流銀冠~	80回	かつお



オンライン版でも  
お楽しみください!

# まえがき

こんにちは！ 第79回 灘校文化祭“weave”、楽しんでますか？

僕たち灘校生はご来場いただいた皆さんに最大限楽しんでいただきたい、その一心でこの文化祭を作り上げてきました。

是非、この文化祭の細部に宿る思い、こだわりにも着目してみてください。そこで僕たちの持つエネルギーを感じとっていただければ幸いです。

では、改めて灘校将棋部へようこそ。

個性溢れる部員達の部誌を、隅々まで味わって下さい。

灘校将棋部部长 小森 龍太郎

## 目次

まえがき・目次	1p
奨励会員記	2~4p
嬉野流	5~11p
AI と将棋~その影響と問題の展開を中心として~	12~16p
【コラム1】 コラムについて	16p
【コラム2】 将棋の囲いについて	16p
袖飛車のすゝめ	17~25p
【コラム3】 現代角換わり腰掛け銀の仕掛け	25p
【コラム4】 ゴキゲン中飛車を指そう！	25p
六七銀型角交換振り飛車	26~31p
【コラム5】 空中楼閣	31p
三間飛車&四間飛車対策~こいなぎ流銀冠~	32~35p
あとがき・奥付	36p

## 1. 奨励会とは

そもそも奨励会とは何なのかについて説明しましょう。少し冗長になります。ご存知の方は読み飛ばしていただいて構いません。奨励会は正式名称を新進棋士奨励会といい、日本将棋連盟のプロ棋士養成機関です。要はプロ棋士になるために入る修行場みたいなものです。一応棋士編入試験制度という別の方法でプロ棋士になることもできるのですが、基本は奨励会を勝ち抜かないとプロ棋士にはなれません。

話が逸れますが、去年から今年の1月にかけて女流棋士の西山朋花先生が棋士編入試験を受験なさったことは将棋界で大きな話題になりましたよね。勝てば合格、負ければ不合格の第5戦で惜しくも敗れてしまったものの、「初の女性棋士誕生か?」と将棋界を盛り上げてくださいました。本当に尊敬する先生の1人です。ちなみに西山先生の第5戦の相手である榎木幹太先生は僕の師匠である増田裕司先生の弟子なので、僕の兄弟子に当たります。師匠は「もちろん榎木に勝って欲しいが、将棋界としては西山女流が勝った方が盛り上がるだろうな」と、板挟みになって頭を悩ませておられました笑。

話を戻しましょう。基本は奨励会を勝ち抜かないとプロ棋士にはなれないというところまでお話ししましたね。では具体的にどれだけ勝てば良いのかをお話ししましょう。まず最初に奨励会入会試験に合格しなければなりません。これは毎年8月に1度だけある試験で、合格するのはなかなか大変です。僕も3回落ちました笑。この話は後ですとしましょう。入会試験を受験する時、受験級を指定する必要があります。

## 4. 受験できる級位

満15歳以下	6級以上
満16歳以下	5級以上
満17歳以下	4級以上
満18歳以下	3級以上
満19歳以下	1級

右の画像のように一応年齢による制限はありますが、大体は自由に受験級を決められます。受験級というのは、合格すればそこから始められるという級です。例えば6級受験して合格すれば奨励会6級となり、1級受験し

て合格すれば奨励会1級となるといった具合です。級が上がるにつれ、合格は難しくなっていくますが、当然ですが。だいたいの方は6級を受験します。1回の試験で1人ぐらいいは5級を受験しますが、それは例外と言えるでしょう。つまりほとんどの人は奨励会6級から始まるということです。そこからプロになるには、四段まで昇級・昇段しなければなりません。

## 昇段、昇級

三段から四段への昇段は年2回の三段リーグに参加し、1・2位の成績を取ること。  
初段～三段までの昇段点は、8連勝、12勝4敗、14勝5敗、16勝6敗、18勝7敗。  
6級～1級までの昇級点は、6連勝、9勝3敗、11勝4敗、13勝5敗、15勝6敗。

## 降段、降級

三段リーグでの降段は、降段点(勝率2割5分以下)を連続2回取ると二段に降段。  
二段以下の場合、2勝8敗以下で降段級点。これを消さない内に2度目を取ると降段級。降段級点を消すには3勝3敗以上の星を取めなければならない。

右の画像のような規定を満たすと、昇級・昇段することができます。月に2回で、1回につき級位者は3局、段位者は2局しか指さないので、1局がいかに重要かがわかると思います。そして三段まで昇段すると、三段リーグに入ります。三段リーグという言葉は聞いて



たことがあるという方も多くいらつしやるのではないのでしょうか？半年を1つの期とし、

1期18局の成績を競い合つて、プロ棋士になる者を決定する場所です。そこで26歳までに成績上位2位に入る、もしくは次点(成績上位3位)を2回取ること、めでたく四段昇段を果たすことができます。ちなみに我が兄弟子柵木先生は後者でプロ棋士になりました。また26歳までと書きましたが、26歳を超えても勝ち越していれば、29歳まで年齢制限を延長することができます。ちなみに我が師匠増田裕司先生はこの年齢制限延長の末にプロ棋士になりました。「あれ、意外と三段リーグってイージー芸じゃね？」って思われたそのあなた、すいません、僕の説明が悪いです。実際は本当にハードで、プロ棋士になれるのはほんの一握り。これまでに年齢制限で奨励会を退会せざるを得なくなった方は数え切れないほどいらっしゃいます。マジに厳しい世界です。

## 2. 奨励会入会前

ここはあまり面白くないのでサクッと。僕は奨励会入会前、研修会という別の機関に入っていました。研修会の説明までしていたらいよいよ読者の皆様がこの部誌を閉じてしまいたいそうなので割愛しますが、高1の時、その

中でB1クラスに所属していました。これが後でキーになってきます。

## 3. 奨励会入会試験

奨励会入会試験は1次試験と2次試験に分かれています。1次試験では受験者同士が対局し、規定数以上の勝ち星を挙げた者だけが2次試験に進むことができます。2次試験では現役奨励会員と対局し、規定数以上の勝ち星を挙げた者が晴れて合格となります。先ほども書いた通り、僕はこの試験に6級受験で3回落ちました。中学受験を終えた後から将棋に集中して、中1で初受験するも撃沈。中2でも撃沈、中3でも撃沈。宇宙戦艦ヤマトに出てくる最強の三段空母、全部おしゃかになってしまいました笑。でもその度に色々な人に励ましていただき、高1で見事合格、実は高1の受験時、僕は研修会のB1クラスにいました。B1クラスにいる者は1次試験免除となり、いきなり2次試験から始められたのです。これがデカかった。2次試験では3回のうち1回勝てば合格です。ドキドキしながら初戦の対戦相手を聞くと、なんと！小森龍太郎でした！そう、灘校将棋部の現部長で、僕の後輩です！彼は今ももう奨励会を退会していますが、当時はバリバリの奨励会員でした。すごい偶然だなと思いつながら指して、なんとか勝利。負けてくれたのかな？

彼も自分の成績がかかっていたのでそんなはずはないのですが、そう思ってしまった笑。でも内容はガチの真剣勝負だったので、楽しく指した記憶があります。彼とはずつとライバルで、今でもいい勝負をしています。

## 4. 奨励会入会后

晴れて合格した僕でしたが、高1で6級は遅い方です。しかも奨励会員になればアマチュアの大会の出場資格を失います。合格したものの入会するべきか迷っていましたが、師匠の説得もあり入会する事に。入会するからには覚悟を決めて頑張ろうと決意したことは今でも鮮明に覚えています。その後、1年で2つ昇級して執筆現在4級です。早くもなく遅くもないってところですかね……。若干遅い気もしますね……。早い人はもう2級、遅い人はまだ6級ですから。ですが僕はスタートが遅いのでこのままではダメだと思っっています。最近はどうしても他のことに興味が行ってしまい、将棋に充てる時間が少なくなりがちですが、ちゃんと毎日詰将棋と実戦を継続し、最低限の努力をしています(そのつもりです笑)。いつかこの小つち々な努力が身を結べば良いなと思っています。

## 5. 記録係

今まで面白いもない奨励会の説明と僕の棋歴紹介に付き合っていたいただきありがとうございます。ここからは奨励会員にしか書けないことを書いていきます。奨励会の世界を覗いてみたいという方に向けて書きますので、楽しんでいただけると嬉しいです。

皆さんは記録係というものをご存知でしょうか？ プロ棋士の公式戦対局の棋譜を記録する人のことです。指導棋士の先生や若手のプロ棋士、研修会の高校生以上の方が担当することもありますが、基本は高校生以上の奨励会員が担当します。僕も一度担当しました。その時のことについて書いていきます。

2024年11月7日、学校が終わった後の、17時半、当時福島にあった将棋会館に行きました。初記録だったのでとても緊張していました。この時はまだ誰と誰の対局を記録するかまだ決まっていません。その日は6局の対局があったので、僕他に5人が記録のために将棋会館の棋士室に来ていました。棋士室というのはプロ棋士、女流棋士、奨励会員しか入れない部屋です（記者の方なども入れませんが）。18時、6人全員が揃ったところで、棋力の強い順に記録したい対局を選ぶというルールを知りました。僕はその中で最弱だったので最後に残った対局を記録するはずでしたが、初めてということもあり、記録

係に慣れている指導棋士のO先生の近くにいるべきだということで、O先生を選んだ後に僕がその隣で行われる対局を選ばせていただきました。対戦カードは長岡裕也六段 vs 今泉健司五段。棋士室で今泉先生に挨拶して、初記録であることを報告しました。18時25分、緊張しながら対局室に入り、夕食休憩が終わって対局が再開する18時40分まで正座で待機。

18時半になると長岡先生が対局室に戻ってこられたので挨拶し、こちらでも初記録であることを報告しました。18時40分、対局が再開。僕の緊張はマックスに達していました。ですが始まってみると意外と普通でした。局面を考えながら指し手をタブレットに入力するのみ。やっていけそうだと思っていました。やがて今泉先生が待ち時間を使い切り1分将棋に突入。記録係は秒読みも担当するので僕の仕事が慌ただしくなりました。そして、ここで恐れていたことが！ ふと緊張が解けてしまい、秒読みを忘れたのです！ 本来なら、30秒……40秒……50秒、1、2、3、4、5……と秒を読まなければならないのですが、我に帰った時には、すでに57秒！ 今泉先生は時間が切れる前に着手なすり、時計が切れることはありませんでしたが、僕は顔が真っ青になりました。心臓に冷たい氷が刺さったようなあの感覚は今でも

忘れられません。長岡先生から「秒読み……」と指摘され、「あっ」と声が漏れてしまいました。すぐに謝らなければならぬと思

い、「すみません」と言いました。今思えば「すみません」よりは「申し訳ありませんでした」という方が丁寧だった気がします。その時はそんなこと考えられないくらいに焦っていました。今泉先生は僕の謝罪に対して「はい」とおっしゃい、また局面を考えるのに集中なさいました。こっぴどく怒られることはありませんでしたが、自分の中ではものすごく反省しました。その後は気を抜くことなくやりとげ、23時半に将棋会館を出ました。本来なら後片付けなどをしなければならなかったのですが、高校生が終電を逃すのはダメだとO先生が気を遣ってくださり、「代わりに片付けるから早く帰りなさい」と言ってくれました。本当に感謝しています。

以上が初記録体験記です。上手く行ったとは言いがたいですが、プロ棋士の先生の対局を目の前で見られたことは貴重な経験になりました。終電を逃したくないのであまり積極的には記録をとりたいのですが、また機会があれば挑戦してみたいなと思っています。

以上、奨励会員記でした。いかがでしたでしょうか？ ここまでお付き合いいただいた方、ありがとうございます。





### 嬉野流

79回 永見 榛大

この記事では、2023年の第50回将棋大賞で升田幸三賞を受賞された嬉野宏明氏が考案した「嬉野流」について紹介しようと思います。しかし、対棒銀などといった、典型的な変化なんて見飽きた、という方もいるかと思しますので、今回は少し変わった形を紹介します。

### はじめに

嬉野流は、初手▲6八銀↵▲5六歩↵▲7九角という奇抜な形で2019年ごろから一気に有名になり、指す人も増えました。指される回数が増えると、当然嬉野流対策も考えられるようになりました。その中で最も有力だったものの一つが菊水矢倉です。当時嬉野流使いは、菊水矢倉にかなり苦しめられるようになりました。しかし今日では、将棋ウォーズなどで嬉野流を指しても菊水矢倉で対抗されることはかなり少なくなりました。嬉野流は、どのようにして菊水矢倉を克服したのか。これを解説しようと思います。稚拙な文章ではありますが、どうか最後までお読みいただき、嬉野流の魅力を感じていただけたら幸いです。

### 嬉野流

それでは、先手番の場合を紹介します。

初手からの指し手

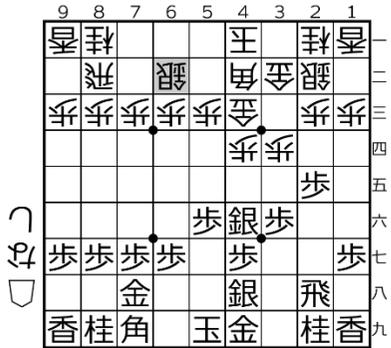
- ▲6八銀△3四歩▲5六歩△3二金
- ▲5七銀△4四歩▲2六歩△5二金
- ▲2五歩△3三角▲3六歩△4三金右
- ▲4六銀【第1図】

【第1図】



【参考図1】

▲なし



このような局面から▲3五歩としても、△同歩▲同銀△3四歩とされてしまい、せっかく前に出した銀を引かざるを得なくなってしまうのでこれでは失敗してしまいます。嬉野流側は、【参考図1】のような局面を作らないように工夫する必要があります。

【第1図】以降の指し手

- △2二銀▲3五歩△同歩▲3八飛【第2図】

そもそも菊水矢倉とは、【参考図1】のような囲いで、嬉野流が大好きな2筋での角や銀の交換を避けることを目的としています。

【第2図】



先述した「工夫」は、いたってシンプルで、相手に囲い切られる前にガンガン攻めに行くことです。▲3五銀をうまく通すことが対菊水矢倉では肝となります。嬉野流の定番とも言える▲7九角を指している暇なんてありません。なお、△2二銀の代わりに△4五歩と指す手も考えられますが、この場合は落ち着いて▲5七銀と指し、▲4八銀上と▲3七桂と▲6九玉と▲4六歩【参考図2】というように、相手の駒の連携があまり強くないうちに△4五歩を狙う方針で指すと良いと思われ

ます。【参考図2】の局面では、この後△同歩同銀△7四歩▲4七銀として、形に厚みを

持たせられるため先手が微有利となっています(＋250点ほど)。

【参考図2】



【第2図】以降の指し手

△8四歩▲7八金△8五歩▲6九玉

【第3図】

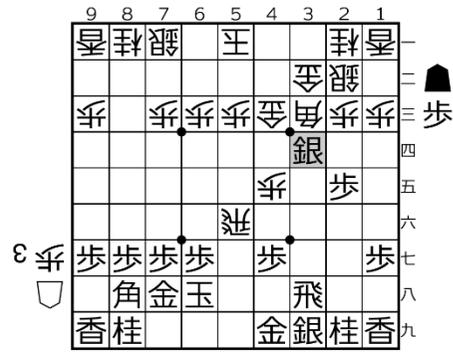


【第3図】

この▲6九玉は、8筋で歩を交換されて▲8七歩△5六飛と王手をかけられるのを避けるための手であり、この場合は比較的落ち着いた展開になります(後述)。また個人的には、▲6九玉の代わりに▲3五銀とする手を紹介しようかと思ったのですが、▲3五銀以降は、8筋の歩を交換した後▲8七歩△5六飛▲6八玉△4五歩▲3四銀【参考図3】といった形となり、これでは少し嬉野流っぽさが薄れてしまうなど感じたので参考程度に留めておくことにしました。なおこの変化はほぼ互角になるので、激しい将棋が好きの方はこの変化を選択すると楽しいと思います。



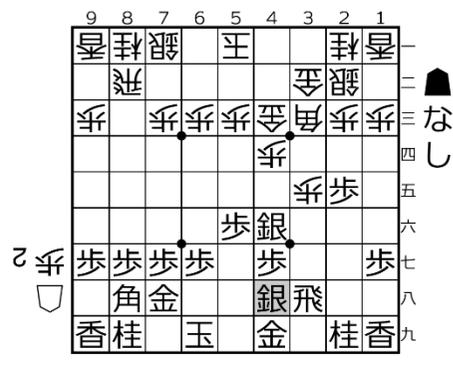
【参考図3】



【第3図】以降の指し手

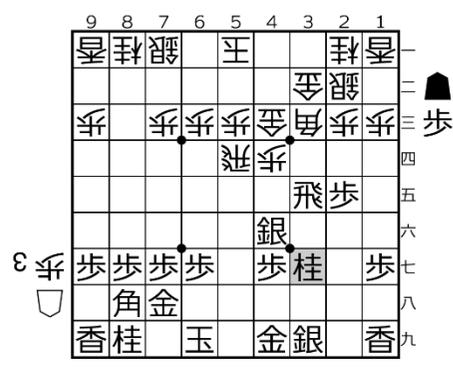
- △8六歩▲同歩△同飛▲8七歩
- △8二飛▲4八銀【第4図】

【第4図】



3五銀はいつでもできるので、急いで指すのではなく、一度落ち着いて4八銀として駒組みを固めていきます。△8二飛の局面で△5六飛とする手も考えられますが、このときには▲3五飛△5四飛▲3七桂【参考図4】とすれば先手有利。(+300点ほど)

【参考図4】



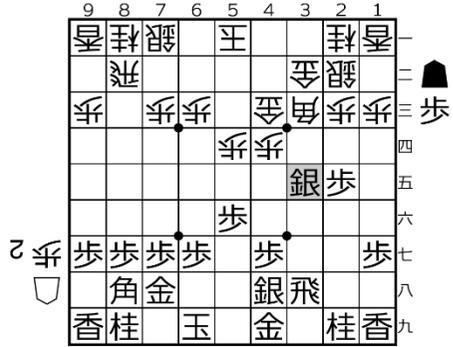
【第4図】以降の指し手

- △5四歩▲3五銀【第5図】





【第5図】



後手は角や右銀の活用を目指して△5四歩としますが、ここでようやく▲3五銀。このタイミングで銀を上がるメリットとして、▲3五銀とした後に△8六歩▲同歩△同飛▲8七歩△5六飛とされたときに▲4六銀【参考図5】とすれば、相手の飛車が5四に引けなくなっていることが挙げられます。後手は受けに回らざるを得なくなりませす。

【参考図5】



【第5図】以降の指し手

- △6二銀▲3六飛△5三銀▲3四歩
- △4二角▲7六歩△4一玉▲3七桂

【第6図】

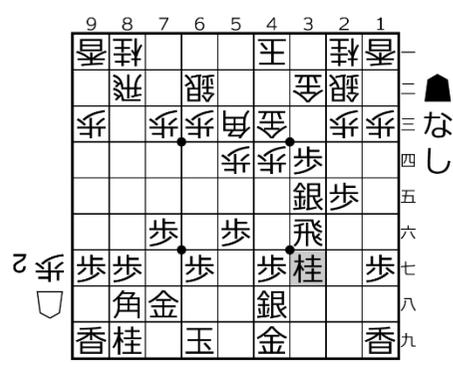
【第6図】



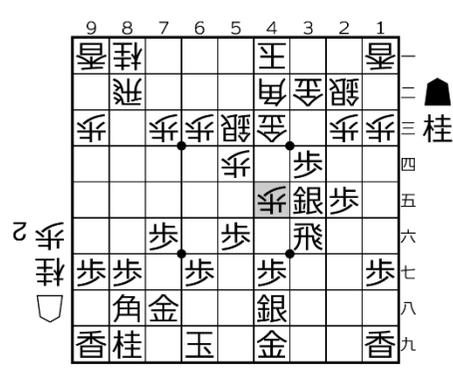
△6二銀以外の手(例えば、△4一玉)を指してしまうと、▲3四歩△4二角▲3六飛△6二銀▲3七桂とされ【参考図6】、この後の▲4六歩▲4五歩からの攻めがあまりにも厳しいので後手としては避けたいところ。それゆえ▲7六歩を警戒して後手は△6二銀と指してきますが、やることは結局変わりません。



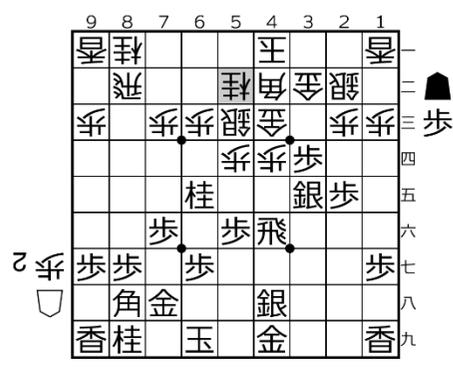
【参考図6】



【第7図】



【第8図】



【第6図】以降の指し手

△3三歩▲同歩成△同桂▲3四歩

△4五桂▲同桂△同歩【第7図】

後手は先手の3七桂を放置しておく、▲4六歩～▲4五歩の攻めがやはり厳しいので、無理やり桂交換を仕掛けてきます。桂馬が無くなって少し攻めづらくなってしまうように見えますが、ここまでできて攻撃の手をやめるわけにはいきません。うまく攻めを繋げていきましょう。

【第7図】以降の指し手

▲4六歩△同歩▲同飛△4四歩

▲6五桂△5二桂【第8図】

▲4六歩に対して△同歩ではなく△9五桂とするのは、冷静に▲7九桂と受ければなんとか耐えています。▲7九桂以下△8七桂成▲同金△8六歩▲7七金【参考図7】で先手優勢。後手は▲4六歩を無視するわけにはいかず、仕方なく△同歩と指します。これに対して▲同飛とすることで先手は飛車をうまく利かせることに成功しました。また先手は▲6五桂と攻めに持ち駒の桂を使っているのに対し、後手は受けに使っているという点において、先手がかなり指しやすい展開になっています。



【参考図7】



【第8図】以降の指し手

- ▲5三桂成△同角▲5五歩△同歩
- ▲同角△5四歩▲7七角【第9図】

【第9図】



ここからはじわじわと相手の囲いを解体していきます。銀桂交換をしたのち▲5五歩と指すことで飛車の横への利きを増やすことに成功しました。また、▲7七角と引くことができたことで、形も安定させられる上に、△9五桂を防ぐことにも成功しています。

【第9図】以降の指し手

- △8二歩▲同角△6四角▲4五歩
- △9五桂▲4四歩△同桂▲同角【第10図】

【第10図】



ここからは激しい攻め合いが続きます。後手は△6四角として飛車取りをかけてきますが、もしこのタイミングで飛車を取られても先手は飛車に強い形をしており、△2九飛とされても▲3九金△1九飛成▲2二銀△1八竜【参考図8】で竜の働きが非常に弱くなるので、この飛車取りは無視しても特に問題ないです。したがって△6四角に対しては▲4五歩と指せば良いです。これに対する△9五桂は少し怖いですが、先手の攻めのほうが早いので受ける必要はありません。



こんにちは。灘校将棋部現部長、ひきこもりです！ 文化祭楽しんでますか！

さて、部誌を書くにあたり、僕は1月末に行われた長崎の将棋新人戦全国大会の参戦記を載せるつもりでした。しかしあっさりBest 16で負けてしまい、特に見どころもなく大会が終わってしまったのです。というわけで本記事では灘校生魂をむき出しにして、論文風に現代将棋界にAIが与えた影響について考察してみました。片手間に読んでいただければ幸いです。

## はじめに

2025年現在、AIの進化は止まらない。生成AI、人工知能、10年前は夢の技術だと思われていたものはすでに実現されている。そんな進化の最たる例が、将棋AIである。

本文ではAIの進化が将棋界に与えた影響についての分析・考察を行う。紀元前3000年からあるボードゲームの歴史の中でも、将棋はかなり特異な部類に入る。それは取った相手の駒を使えるという特徴に由来する。だが、そんな複雑な将棋において、現在AIは人間を超え絶対的存在となった。

オセロ、チェス、囲碁、そして将棋。あらゆるボードゲームにおいて、最先端はAIであり、既に人間は決してAIには勝てない。そして、このままAIが進化を続ければ、それぞれのボードゲームにある無限通りの可能性をAIが全て踏襲し、必勝法が編み出される可能性も全く否定できない。

将棋界はAIによってどのような影響を受けたのか。

これからのようにして絶対的な存在であるAIとの共存を実現するのか。

本文でこれらの問いと向き合っていく。

## 1. AIが将棋界にもたらした進化

前述のとおり、AIが将棋界にもたらした多大な影響を読み解いていく。この章ではい影響、発展について考察していく。

### 1.1 人間の棋力の大幅な向上

AIの登場で、人間の将棋の棋力は飛躍的に向上した。

最強棋士たちの全盛期のレーティングを分布や勝率ではなく、将棋の理論値を4600〜4700と設定し、指し手の質をもとに算出したデータを紹介する。

#### 【表1】

	時代	実績	レート
六代大橋宗英	200年以上前	「近代将棋の祖」	2980
大山康晴	1923~92	タイトル80期	3000前後
中原誠	1947~	タイトル64期	3100前後
羽生善治	1970~	タイトル99期	3300前後
藤井聡太（四段時）	2002~	29連勝	3300前後

(\*1)

羽生九段が前時代の2人と大きく離れているのは、棋譜データベースの整理がパソコンで可能になった時代が被ったからだと推測されるが、200離れるのはさすがとしか言いようがない。また、そんな神がかり的な強さを持った全盛期の羽生九段とデビューしたての





藤井聡太現八冠は互角だという計算になる。

この手法で現在の藤井八冠のレートと算出すると3700前後、現代の将棋棋士の平均レートは3100前後。(\*2) このデータから、将棋そのものの質が向上しているとわかるだろう。中原九段の将棋は現代では並みになってしまおうという、驚愕の事実だ。もちろん、中原や大山が現代にいれば、どれほどの棋力だったかは未知数であるが。

原因はもちろんAIである。現代の最強AIのレートは4400前後。将棋の理論値が4600〜4700であることが前提のもと話を進めているので、AIの強さはもはや人間では測れず、観測にもAIを使わなければならぬ。そして将棋AIによって新たな局面がどんどん発見され、答えが出なかった局面がどんどん結論付けられている。また、ディープラーニングで常に最先端で進化するAIを、我々はトレーニンングツールとして使うようになった。

将棋自体が急速に進化していること、それがAIによるものであることは疑いようのない事実である。

## 1.2 将棋のエンタメ化

「脳戦」というイベントがあったことを知っているだろうか。棋士とAIが5対5で行う団体戦形式のエキシビジョンマッチだ。

脳戦から、将棋界はエンタメという観点で大きく変わった。当時の会長、米永氏は「新しい客層の開拓」を脳戦の大目標に掲げていたが、予想以上の成果が出た。

大盤解説は満席、若い女性の姿もちらほら。「ニコニコ動画」での配信は毎回数百万人の視聴者を集めていた。人間が正座している。盤の向こうには無機質な機械が座っていて、

実際に指す。それはSFのような異様な光景だった。進化が止まらないAIに対し、経験と叡智で立ち向かう人間という構図はまさに当時の社会の縮図であり、大きく注目されたのだと考察する。電王戦によって、ライト層への宣伝は大成功した。

廃止された2017年、AIにもはや人間は勝てない、それが印象付けられた点は衝撃だったかもしれない。しかしそこから、将棋界はエンタメに力を入れ始めた。以前は長時間の将棋の特性上、ただ動かない盤面を見続けるしかなかった。今はどうだろう。解説者と聞き手のトーク、対局者のごはん「勝負飯」、そしてAIを利用した評価値グラフ。対局中継は、将棋を知らない人でもそこそこ楽しめるコンテンツに発展した。プロ同士の高度な対局がAIによって「見える化」されたのだ。それによって「観る将」(\*3)が増えた。将棋を扱ったニュースが増えた。劇的な

強さを誇る藤井聡太はもはや日本に知らない人はいないだろう。

他にも棋士をタレントとしてとらえ、早指しの棋戦、チーム戦やドリームマッチ企画などもどんどん実現してきている。以前の将棋、プロ棋士の「お堅い」イメージを改革するという米永氏の未来図は完全に実現された。

AIの他にも羽生善治・藤井聡太のスター性、コロナ禍、将棋ブームなど複合的な要素が絡み合いこの変化は巻き起こったと見るべきだろう。だが、きっかけは間違いなく

AI・脳戦であったし、変化の中にも常にAIがあった。「エンタメ」観点から見るとAIは素晴らしい変化をもたらしたと言える。

## 1.3 普及

前述の将棋ブームが影響したこともあり、将棋自体の知名度が大きく上昇した。

多くの将棋教室ができ、将棋のコミュニティが増えた。ここ十年で最も大きかった要素は、AI研究の一般化、そしてオンライン対局の普及だろう。今まで地方で場所に恵まれなかった人たちが、力をつけられる環境がパソコン一台で用意できるようになった。若い人たちが、隙間時間に対戦アプリなどで手軽に上達できるようになった。コロナ禍でも自宅将棋を楽しむ上達できた。



ほかにも、女流棋士の活躍や、インターネットによる日本文化としての国際的な広がりも見せつつある。道場に行っても年配の人しかいない、なんて状況はありえなくなつた。将棋が女性や若者に普及した事実は大きい。

#### 1.4 他分野への広がり

今までただのボードゲームだった将棋は、将棋AIの台頭から内に秘めていたポテンシャルを社会に対し開花させつつある。

例えば、教育。将棋の経験と頭の良さの関連性は昔から提唱されていたが、近年研究が進んでおり、論理構理解力や記憶力、忍耐力や精神力にとってもいい影響を与えることがわかつた。それから子供を将棋教室へ通わせる親が増えた。小学校の特別授業や学童などで将棋教室を行ったり、塾が将棋教室を1つのプロジェクトとしてカリキュラムに組み込んだりしている例もある。筆者も教育方面では灘校生として、将棋プレイヤーとして2つの面から関わらせていただいている。他にも日本文化としての芸術面やゲーム性、言語文化の分野からも注目されている。これらはAIの直接的な影響ではないが、AIを中心としたここ十年の大きな波の中で生まれたのは間違いない。

そして、AI界限。何を隠そう、将棋AIはディープラーニング・機械学習の分野の最先端を行くものだ。日々研究競争が行われている界限であり、現在そのかわりは非常に深いものとなつている。新しい技術がどんどん投入され、実用化もとても目に見えやすい。近年はプロ棋士でありつつ将棋AIを研究する谷谷廣紀氏のような人も出てきた。将棋AIは最も速いスピードで進化している市場だと言われている。

### 2. AIが将棋界に与えた悪影響

#### 2.1 プロ棋士の立場

将棋において、AIは絶対だ。この前提のもと、現代棋士は将棋で強くなろうと日々修行している。AIという絶対に越えられない壁がある中で、どれだけ突き詰めようと人間の限界があるし、突き詰めるためにAIを使う。「AIにどれだけ近いかが今の強さの基準となつている今、彼らはAIに限りなく近い、という評価を得るために常にプレッシャーの元対局している。

また、AIの台頭はアマチュアを強くした。プロにしか知りえなかつた情報を、今はアマチュアもPC1台で知ることができる。実際、アマからプロに編入した棋士も何人かいる。去年、奨励会の経験がないアマの小山玲

央氏がプロ入りを果たしたのは記憶に新しい。奨励会に入り、修行を経てプロ棋士になり、将棋を極める道を進む意味とは何なのか。今、プロ棋士の「意義」そのものが問われている。

#### 2.2 個性・創造性の消失

「皆が同じソフトを使って研究する中、どう戦い方に個性を出すか、ということが突き付けられていると思う」 羽生善治（\*4）

前述したとおり、定跡は整備され、AIがどんどん新しい局面を開拓している現状。今まで人間が築き上げてきた定跡はここ十年で大半がAIに塗り替えられている。人間の叡智は、相対的に価値が下がりがつつある。そういった環境の中、AIが指し示す「指しやす」局面をプロ棋士は好む。だから似た局面が頻出する。そのあとの指し手も「AIにいかに近いか」という視点から善悪が判断されるため、彼らの指し手は似たり奇つたりになつてきている。

居飛車と振り飛車の関係性が例として最もわかりやすい。現在、AIは居飛車が指しやすという結論を示している。その結果、プロ棋士の全体局の8割以上が双方居飛車となつてしまつている。（\*5）また、戦型や指し手





も途中まで一緒のものばかりだ。こういった現状から、棋士の創造性の消失が懸念されている。

前にエンタメ化の観点で将棋はよくなったと書いたが、かつての将棋ファンからすると個性のない対局を見るのはいささか退屈かつもしれない。筆者も確かに昔の棋譜のほうがつつと創造性にあふれた多様な将棋で見えて楽しいと感じる。将棋の未知のスリルという魅力は消えかかっている。だが、プロ棋士からすれば、創造性を押し出しても勝率は下がるとのだから、抑えてしまうのも仕方ない。

AI がもたらした新たなジレンマがここにある。

### 3. これからの人間と将棋 AI の向き合い方

AI が将棋界にもたらした影響を分析してきた。AI は絶対の存在でありながら、現在人間との共同研究のパートナーとして存在が確立されている。AI は将棋自体を進展させ、より多くの人に普及するきっかけとなった。一方、プロ棋士の存在意義や学習依存、創造性の消失など多くの問題もある。現在、実は将棋の競技人口自体はコロナ化も相まって減っている。プレイヤーにとっては、面白みが薄まっているのも事実。

AI はこれからも強くなり続ける。もしかしたらこの先二十年で AI は必勝法を見つけ

出し、将棋を「解く」かもしれない。解かれたらプロ棋士もいらぬし将棋というゲームの魅力が消失してしまうのではないか。

オセロは AI にすでに「弱く解かれた」。(＊6)「弱く解かれた」というのは全局面の解析を終えたうえで結論ではなく、木の枝刈り(＊7)を使い特定の局面に対しのみ解析。現在は AI が最善を尽くしあうと引き分けになる、と結論付けられている。

だが、「最善」が示されたオセロは、現在も多くの人に親しまれている。大会もあるし、世界選手権だって存在している。対人での対局の質が上がり、ゲームとしての深みが増したとさえ言われている。おそらく「完全に解かれる」ことになっても、オセロというボードゲームはその先も続いていく。

今すべきは将棋 AI がもたらした多大な影響から目を背けず、二十年後の将棋というボードゲームの存在意義について真剣に議論することではないだろうか。オセロと同じように未来に進めるかは不確定要素が多すぎるはずだ。将棋界は現状、あまりにも AI の進化に対して倫理的観点からは楽観的だと感じる。なぜ人間は将棋を指し、探求するのか。それを「好きだから」という理由で終わらせず、もう一步先の倫理的な定義について考えるべきではないか。さらに進化した AI との向き合い方が確立され、将棋が世界中の人々

に親しまれている、二十年後の実現のために。

AI への依存ではなく、共存による発展を。

AI をさらに効果的に使えば、将棋が日本を飛び出して世界に裾野を広げることだって現実にできる。教育ツールとして活用できる。

新たなボードゲームとしての勝負形式を作り出せる。将棋界が AI との共存の可能性を示すことができれば、人類と AI が共存した未来に大きな影響を与えると確信する。

#### 注

(＊1) 山下宏氏の研究論文より。棋譜の悪手の数に着目した方程式で算出されている。

(＊2) 山下氏の方程式をもとに筆者が計算。使用ソフトは水匠 *veq*。誤差が想定される。

(＊3) 将棋を指すのではなく、観て楽しむフアン層。棋士の姿やごはん、トークや評価値グラフの揺れを見て楽しむ。20代以上の女性に多い。

(＊4) 『人間の未来／AI の未来』羽生善治 × 山中伸弥 より

(＊5) 棋譜データベース DB2 より

(＊6) 2023年10月30日に発表された論文「Othello is solved」より

(＊7) 局面を読む際に明らかに要らない手を省く行為のこと。AI は人間と比べてかなり木の枝刈りが甘い。ゆえに人間が絶対に気づけない手を発見することができる。



## 参考文献

- [1] 公益社団法人日本将棋連盟  
【<https://www.shogi.or.jp/>】(2024年8月26日)
- [2] 棋譜データベース DB2
- [3] 『将棋 AI で学ぶディープラーニング』  
山岡忠夫
- [4] 論文『Pro Shogi Player's Rating and Game Records Analysis』山下宏
- [5] 『AI の衝撃』 小林雅一
- [6] 『AI はどのようにして名人を超えたのか』山本一成
- [7] 論文『将棋 81 万…強化学習のための多様性を持った将棋初期局面集』出村 洋介・金子 知適

## おわりに

いかがだったでしょうか。文中ではかしくぶっていますが、ちよつと将棋界の現状を整理しているだけです。ですが、AI との向き合い方を間違えてしまえば、将棋というボードゲームの魅力が失われる可能性があることは否定できません。僕はこれからもずっと、将棋を純粹な気持ちで楽しみ続けたい、そう願うばかりです(終)。

## COJUMEN

### インタビュー

#### 編集者

本冊子「灘校将棋部部誌COJUMEN」を手に取りいただいた皆様、ありがとうございます。この度は、「ラムニック」の説明をさせていただきます。

本年度は部員よりたくさんの記事が提出されたのですが、紙面の都合上、全てを掲載することはできず、一部を抜粋して掲載いたしました。

この際、紙面掲載がならなかった記事について、読者の皆様にアピールさせていたたく。それが、本冊子における「ラム」です。

## COJUMEN

### 将棋の囲碁対局

79回 安永 悠太

囲碁対局は囲碁を組むのにかかる手数、上からの攻めに対する強さ、横からの攻めに対する強さ、自陣のパラソの4つのポイントについて悠太で評価付け。

初心者の方でも楽しめる記事となっております。

ぜひお楽しみください！

オンライン版記事は  
こちらから↓





【1】角を3一で保留する場合…この場合先手は玉を囲い、▲4七銀～▲5六銀～▲4五歩と仕掛けていきます。

【図2】からの指し手①…

- △4一玉 ▲6八銀 △5三銀 ▲4七銀
- △5二金 ▲7九玉 △7四歩 ▲5九金
- △1四歩 ▲5六銀 △7三桂 ▲9六歩
- △9四歩 ▲4五歩 【図3】

【図3】

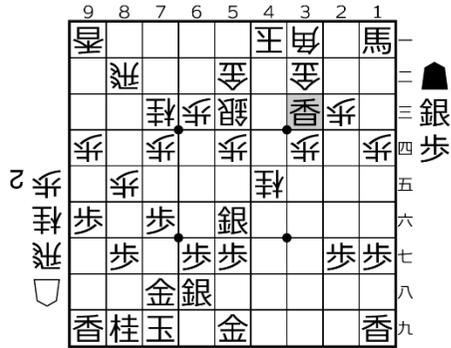


▲なし

△なし

- 【図3】からの指し手①…
- △同歩 ▲3四歩 △同銀 ▲同飛
- △同歩 ▲1一角成 △3三桂 ▲4五桂
- △同桂 ▲3三香 【図4】

【図4】



▲銀歩

△桂歩

こうなると、飛車と銀香の交換ながら馬が作れ、自陣が飛車の打ち込みにも強いので先手優勢です。なので、▲4五歩にはとらずに他の手に対応する必要があります。\*▲同飛のところでは▲4五銀でも調子が良いように見えますが、これには△8六歩 ▲同歩 △8七歩 ▲同金 △8五歩という手があり、上手くいきません。

【図3】からの指し手②…

- △4二角 ▲4四歩 △同銀 ▲4五歩
- △5三銀 ▲3四歩 △同銀 ▲4四歩
- △6四銀 ▲6六角 【図5】

【図5】



▲なし

△桂歩

この局面は互角ながら、4四の拠点が大きい事や後手からの指し手が難しいこと、先手に入ればすぐに銀が取れる形であることなどから、先手が指しやすいでしょう。また、△同銀 ▲4四歩のところでは▲同飛でも良いですが、△同歩 ▲1一角成 △3三桂のときに▲4五桂と跳ねることができないので意外と難しい形勢です。



「2」6四に角を置く場合…この場合は6四の角を目標にして指していきます。

【図2】からの指し手②…

△8六歩▲同歩△同角▲8七歩

△6四角▲4七銀△7四歩▲6八銀

△5二金▲9六歩△9四歩▲7九玉

△4一玉▲5八金△7三桂【図6】

【図6】



以下は6四の角を目標にした指し方の一例です。

【図6】からの例…

▲5六銀△3一玉▲4五歩△同歩

▲6六歩△5五歩▲6五歩△8六歩

▲同歩△同角▲5五角(▲8七歩は△6八角成△5六歩)【図7】

【図7】



この局面は、後手が△5三角や△4二角のように角を引けば▲8七歩と収めて、▲3四歩(▲4五銀のように調子よく攻めることができます。また、この局面では△8七歩が最善ですが、▲6七銀直と形を整えておけば、角を5三や4二に引く手には▲3四歩▲4四歩、△4二金には8七金と歩を払い△5三角

に▲8六歩と収めれば歩得で先手の形もよく、仕掛けも残っているので、五角ながらに先手の楽しみが多い局面といえるでしょう。また、【図6】から、▲6六歩(▲6七銀のように形を整える指し方などもあります。この場合は相手の出方に応じて指していくことになりません。こちらの指し方もおすすりめです。

このように袖飛車に雁木で対抗する指し方は有力です。しかし袖飛車側としては、角頭が弱いことに気を付けて指せば常に▲4五歩からの仕掛けがあり、局面の主導権を握ることができます。なので、雁木は袖飛車にとってはあまり恐れなくてもいい戦型ともいえます。

(2)2手目△3四歩の場合 この場合は、相手が居飛車を指すパターンと振り飛車を指すパターンに分かれます。まずは居飛車のパターンから紹介していきます。

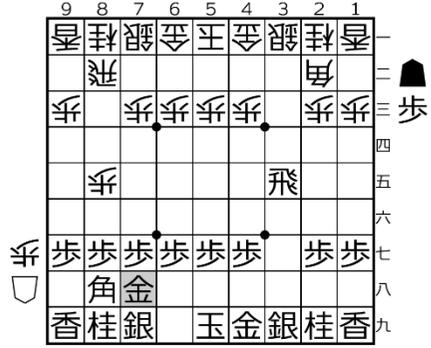
【図1】からの指し手②…

△3四歩▲3八飛△8四歩▲3五歩(この局面では他にも▲4八銀や▲7八金、▲7六歩なども有力ですが、今回は▲3八飛と指した手を生かして▲3五歩と積極的につく手を紹介します)(△同歩▲同飛△8五歩▲7八金

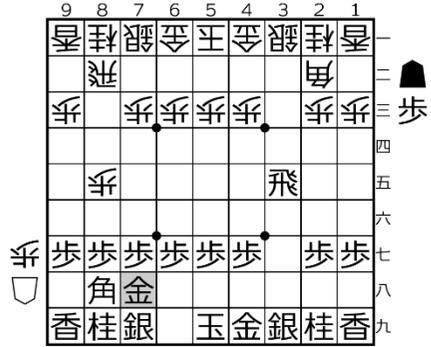
【図8】



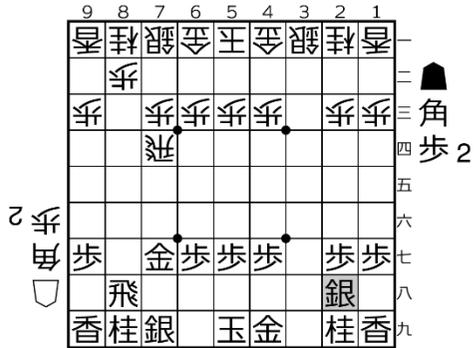
【図8】



【図9】



【参考図1】



この局面では後手の手は広いですが、△8六歩と飛車先の歩を交換する手、△7二銀から早繰り銀を目指す手、△3二金から駒組をする手の3つが有力です。

【1】△8六歩の場合

【図8】からの指し手①..

△8六歩 ▲同歩 △同飛 ▲7六歩 【図9】

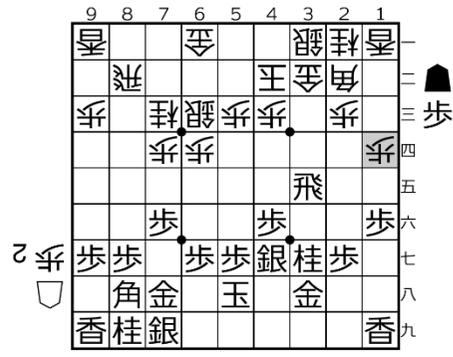
この手に△同飛と取ると、▲8五飛△8八角成(この手に△8二歩は▲2二角成△同銀▲9八角) ▲同飛△8二歩 ▲7七金△7四飛▲2八銀【参考図1】のような進行が一例で、この局面は歩損ながら先手の金銀の働きが後手より良く、先手不満のない形となります。

【図9】からの指し手..

- △8二飛 ▲8七歩 △3二金 ▲3八金
- △4二玉 ▲4八銀 △6二銀 ▲4六歩
- △6四歩 ▲4七銀 △6三銀 ▲5八玉
- △7四歩 ▲3七桂 △7三桂 ▲1六歩
- △1四歩 【図10】 ▲1五歩 △同歩
- ▲1四歩 【図11】



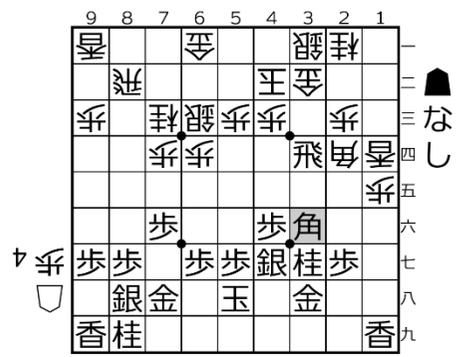
【図10】



先手はこのように中住まいに構えて仕掛けのタイミングをうかがいます。【図10】では、後手の6三の銀が浮いているので1筋からの仕掛けが成立します。【図11】から、△同香と取る手には▲3四飛△8八角成▲同銀△2四角▲3六角【図12】として、銀香両取りをかけることができます。

また、【図9】からの指し手の中で△7三桂に代えて6三の銀に紐をつける△5二金という手には▲7五歩△同歩▲同飛と歩を交換しておいて、△7四歩▲3五飛△7三桂に▲3六飛【図13】と指しておきます。

【図12】



【図13】



この展開は、先手からは▲4五歩と位を取る手や▲2六歩▲2五歩と指す手、▲7七角▲6八銀と自陣を整える手があり、指し手に困りません。また、【図10】のように後手が一つ間違えればすぐに仕掛けることができます。局面的には互角ですが、後手には気を付けなければならぬことが多く、指し手も意外と難しいです。こうしたことから【図13】は評価値以上に後手に苦勞が多い展開といえるでしょう。

【図11】



また、【図9】からの指し手の中で△7三桂に代えて6三の銀に紐をつける△5二金という手には▲7五歩△同歩▲同飛と歩を交換しておいて、△7四歩▲3五飛△7三桂に▲3六飛【図13】と指しておきます。



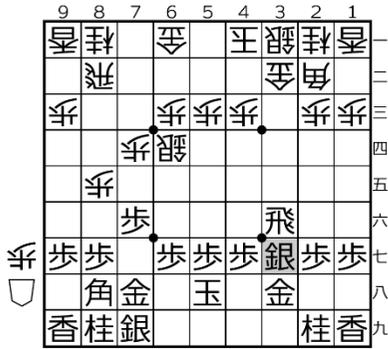
【2】△7二銀から早繰り銀を目指してくる場合

【図8】からの指し手②..

- △7二銀▲3六飛△7四歩▲7六歩
- △7三銀▲3八金△6四銀▲4八銀
- △3二金▲5八玉△4一玉▲3七銀

【図14】

【図14】



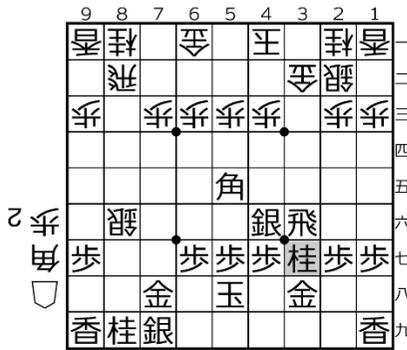
後手が早繰り銀の形にしてきた場合も中住まいに構えます。この局面から後手が△7五歩と突いて来ずに駒組を進めたら▲4六銀▲4五銀▲3七桂と指します。これも一局です。

【図14】からの指し手..

- △7五歩▲同歩△同銀▲4六銀
- △8六歩▲同歩△同銀▲2二角成
- △同銀▲5五角△7三歩（この手に代えて△7三角は▲同角成△同桂▲7四歩で先手優勢、△6四角は▲同角△同歩▲8三歩△6二飛▲8二角で先手優勢です）▲3七桂

【図15】

【図15】



この局面で後手が△8七銀成としてくれば▲4五桂△5二金▲3三歩△4二金左▲7四歩【図16】として先手優勢です。

【図16】



この局面で後手が△7八成銀としてきても▲同銀で、8八の地点に角が利いていて後手の飛車は成ることができません。【図15】で後手は△7五銀が最善でこれも難しい将棋ですが、先手からは▲4五桂▲7七桂のように左右の桂を活用する手があり、指していきやすい展開です。早繰り銀には8筋をあまり受けずに受け流すようにして指すのがポイントです。



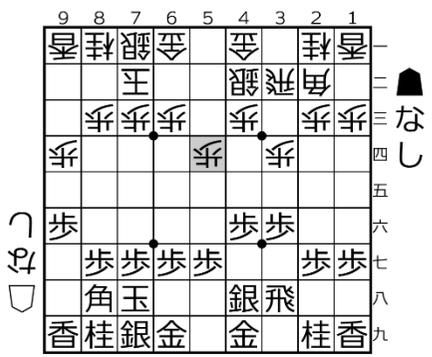


【3】△3二金から駒組をしてきた場合  
 この場合は「1」の△8六歩の場合とあまり  
 指し方は変わらないため割愛させていただきます。

ここまでは後手が居飛車の場合の指し方について紹介してきましたが、ここからは後手が振り飛車の場合の指し方について紹介させていただきます。振り飛車といっても様々な種類がありますが、今回は三間飛車についてのみ紹介します。

- 【図1】からの指し手③..
- △3四歩▲3八飛△3二飛▲4八銀
- △4二銀▲6八玉△9四歩▲9六歩
- △6二玉▲7八玉△7二玉▲4六歩
- △5四歩【図17】

【図17】



この局面からは、▲2六歩△2五歩△2八飛として居飛車にし直す指し方が有力ですが、今回は振り飛車は3八のままにした指し方を紹介します。

- 【図17】からの指し手..
- ▲7六歩△4四歩▲4七銀△5二金
- ▲5八金△8二玉▲5六銀△7二銀
- 【図18】

【図18】



この局面からは、▲7七角△8八銀△8六歩と銀冠に囲い持久戦を目指す指し方や▲6八金直として仕掛けていく指し方などがあります。

- 【1】持久戦を目指す場合
- 【図18】からの指し手①..
- ▲7七角△7四歩▲8八銀△5三銀
- ▲8六歩△6四歩▲8七銀△7三桂
- ▲8八玉△6三金▲7八金△8四歩
- ▲9八香△8三銀▲9九玉△7二金
- ▲6八金右【図19】





今回は袖飛車について紹介させていただき  
ました。袖飛車は、定跡から外れながらも  
様々な戦型に対して互角かそれ以上に戦うこ  
とのできる優秀な戦法です。この部誌を読ん  
だことをきっかけに一度袖飛車を指してい  
ただき、袖飛車の面白さ、奥深さに気づいて  
いただけたら筆者としてこの上ない喜びです。  
ここまで読んでいただき、ありがとうございます  
ました。

## COLUMN 3

現代角換わり腰掛け銀の仕掛け

79回 山根 識

近年流行の戦法、角換わり腰掛け  
銀「▲4八金▲2九飛型」におけ  
る先手の仕掛けについて紹介。  
冊子版にも匹敵する分量に注目！  
特に、居飛車等の方はご覧あれ。

オンライン版記事は  
こちらから↓



## COLUMN 4

「ゴキゲン中飛車を指そう！」

80回 アノキオ

何か得意戦法を見つけない読者の  
皆様にピッタリな「ゴキゲン中飛車  
の指し方や定跡などを、筆者が1  
からそれを学び始めた経緯を少  
絡めて話します。

オンライン版記事は  
こちらから↓



# 6七銀型角交換振り飛車

80回 石川 大智

この記事では少し珍しい角交換振り飛車について紹介していききたいと思います。1つの戦法を指し続けるのに飽きてきた方は是非試してみてください。

まず、駒組の大まかな流れを解説します。

この戦法は自ら角交換をした後、飛車、金、銀、桂馬を左辺にバランスよく構えて、玉の固さではなく、攻めやすさに重点をおき、一方的に成駒を作って攻め潰すという流れで指していきます。

では詳しく見ていきましょう。

初手からの駒組

- ▲7六歩△3四歩▲2二角成△同銀
- ▲7八金△3三銀▲6八銀△3二金
- ▲6六歩△8四歩▲6七銀△6二銀
- ▲7七桂△4二玉▲6八飛【第1図】

【第1図】



ここまでが序盤の駒組です。後手の多くは角道を開けてくるので第1図の形に持ち込みやすく、相手が居飛車なら大体指せるというのもこの戦法の良い点の一つです。次に第1図以下の変化を見ていきましょう。後手の対応として①6三銀7三桂型②速攻棒銀型③持久戦型④右四間飛車型の主に4つのパターンがあります。それぞれ見ていきましょう。

## ①対6三銀7三桂型

後手の6三銀7三桂型は角交換振り飛車の一般的な対策ですが、今回紹介する角交換振り飛車には逆効果で、先手は玉形の硬さを活かしてどんどん攻めることができます。

・【第1図】以下の指し手

- △8五歩▲4八玉△6四歩▲3八玉
- △7四歩▲2八玉△6三銀▲3八銀
- △7三桂▲6五歩【第2図】

【第2図】



先手は守備力の高い片美濃囲いにするをおすすめします。そして、後手の6三銀7三桂の形が完成したらすぐに6五歩と突いて速攻を狙っていきます。

## ・【第2図】以下の指し手

△同歩に▲5六銀と出て次の4六角打を狙います。この4六角という手は対6三銀7三桂型において非常に有効な一手です。▲5六銀



に対して後手が4六角打を受けなければならず4六角を打ちましょう。この手は7三の桂取りであるため後手は受けませんが、7二金や6二金、8三飛などとすると先手に角の効きを生かされて6五桂と跳ねられるため、後手は6四角と受けるしかありません。そして

【第3図】



【第3図】以下▲同角△同銀に▲6五桂と跳ね△同桂なら▲同銀△同銀▲同飛と飛車先を突破でき、後手の玉形の薄さもあって先手優勢。また、▲6五桂に△6二金としても▲7三桂成△同銀▲7五歩と先手の攻めが厳しく

先手が指しやすい展開になります。また、4六角は後手の5五角からの3六桂など美濃囲いの弱点である玉のこびんを狙う手を防ぐ役割も担っています。よって後手は▲5六銀に対し先手の4六角を未然に防ぐ6四角を打つくらいしかありませんが▲6五桂△6二歩▲7三桂成△同角▲5五桂打△5四銀▲7五歩【第4図】と先手の攻めが続き先手が有利です。

【第4図】



このように、この戦法を指す上で4六角は重要な一手なので形の違う6三銀7三桂型にも隙があれば積極的に打つとよいでしょう。

②対速攻棒銀型  
次は後手が早々に棒銀から8筋突破を狙ってくる場合を見てください。後手の勢いのある攻めを受ける手を見てください。

【第1図】以下の指し手

△8五歩▲4八玉△7四歩▲3八玉△7三銀▲6九飛△8四銀▲8九飛【第5図】

【第5図】



後手の7三銀を見たら先手は6九飛から飛車を8筋に回して飛車先を受けます。第5図以下△7四歩と攻めてきても8六歩と反撃することができます。以下△同歩には▲同飛△

8五歩▲8八飛△7六歩▲同銀【第6図】と次に8五銀と歩を取りながら銀を進出することができて先手が優勢です。

【第6図】



また、▲8六歩に対し△7六歩と取りこんできて、▲同銀△8六歩▲同飛△8五歩▲8八飛【第7図】と進みます。

【第7図】



以下先手は▲4六角△7三角▲同角成△同銀▲6五桂△6四銀▲8三歩【第8図】という攻めが厳しく先手が優勢となります。(△同飛には▲7四角で大優勢)以下△7二飛に▲7七歩で後手は指す手が無くなります。

【第8図】



③対持久戦型  
後手が穴熊、平矢倉、金矢倉、総矢倉などの固い囲いを目指してきた場合、先手は浮き飛車から飛車を回して7筋からの攻めを目指します。今回は総矢倉を例に取って駒組を紹介します。後手が2二の地点まで玉を囲ったら持久戦となります。後手は6五の地点で争点を作らせないうために7四歩、6四歩を突かず5四歩から5三銀として6四の地点を守るのが特徴です。ポイントは後手の持久戦を判断したら、できるだけ早く7五歩、6五歩と7筋と6筋の位をとることで。では順に見ていきましょう。



・【第1図】以下の指し手

- △5二金▲4八玉△3一玉▲3八玉△2二玉
- ▲7五歩△5四歩▲6五歩【第9図】

【第9図】



後手が2二玉と持久戦の構えを見せてきたら  
早めに7筋と6筋の位を取りましょう。

・【第9図】以下の指し手

- △5三銀▲2八玉△1四歩▲1六歩△9四歩
- ▲9六歩△4四歩▲3八銀△4三金右▲5六銀△3五歩▲6六飛△3四銀▲7六飛【第10図】と先手は7筋を狙っていきます。

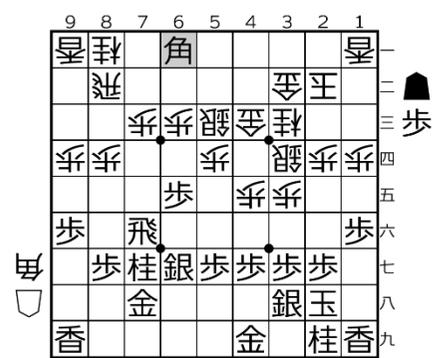
【第10図】



・【第10図】以下の指し手

- △4五歩▲7四歩△同歩▲同飛△7三歩▲7六飛△3三桂▲6七銀△2四歩▲6一角打【第11図】

【第11図】



先手の6七銀と引く手は地味な一手ですが3筋や4筋からの攻めを飛車の横効きを通すことで受けることができます。

そして対持久戦型に最も使う手が6一角という手です。この手に対し後手が何もしないと次に7二歩と打つことができます。7二歩は次の7一歩成を狙った手なので、後手が歩成を受けるために6二銀と引いても6一角の効果で5二角成と馬を作れて先手が優勢になります。

よって、後手は先手に7二歩を打たれる前に何か対策をする必要があります。





④対右四間飛車型

後手の持久戦の形が違って6一角からの7二歩は有効なので常に狙いたい一手です。



【第12図】

・【第11図】以下の後手の対策  
 △4二金寄 ▲7二歩△6二銀とされると先手の5二角成と7一步成を防がれてしまいますが、先手の6一の角はすぐには取られないのでその間に▲4六歩△同歩▲同飛△4五歩▲6六飛と歩を交換して次に▲6四歩△同歩▲6三歩△同銀▲7一步成【第12図】を狙うと良いでしょう。

先手は飛車、銀、桂馬の攻めの陣形が完成しました。後手はまだ桂馬が攻めに参加していません。ここで仕掛けていきます。ポイントは後手玉が4二の地点に居るうちに仕掛ける



【第13図】

アマチュアの間で人気の右四間飛車に対する指し方は主に2つあります。1つ目は「後手の7三桂を待たずに速攻を仕掛ける」という指し方です。  
 ・第1図以下の指し手  
 △6四歩▲4八玉△6三銀▲3八玉  
 △6二飛▲4八金△5四銀▲5六銀  
 △5二金【第13図】

第図では飛車と銀が交換になり、互いに飛車を打ち下ろした局面です。後手玉が先手に比べて薄いため、次に▲4二銀や▲5三桂成△同玉▲6九飛成を狙う手が生じて先手大優勢です。



【第14図】

事と後手の桂馬が7三に来る前に攻めることです。理由は簡単で後手の玉の囲いが薄く、駒を交換したときに玉の安全度が異なるからです。  
 ▲6五歩△同歩▲同銀△同銀△同飛△同飛  
 同桂△6九飛打▲6一飛打【第14図】

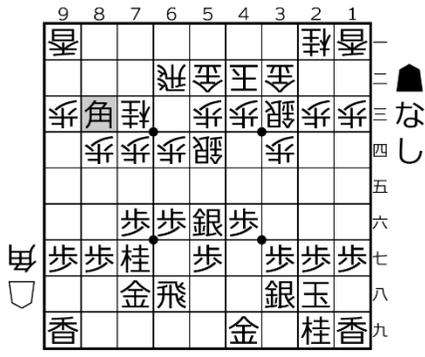


2つ目は後手が8四歩を突いてから右四間飛車にする場合にのみ成立する攻めです。

・【第1図】以下の指し手

- △6四歩 ▲4八玉 △6三銀 ▲3八玉
- △6二飛 ▲2八玉 △5四銀 ▲5六銀
- △5二金 ▲3八銀 △7四歩 ▲4六歩
- △7三桂 ▲8三角 【第15図】

【第15図】

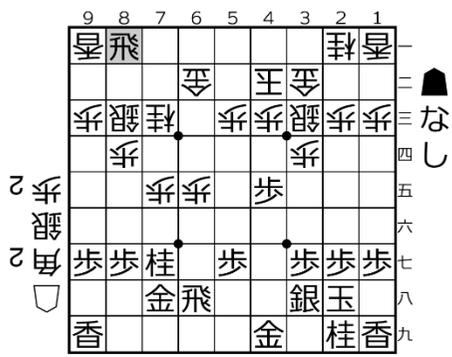


後手が8四歩とした効果でできたスペースに8三角と打ちこみます。以下▲7四角成を防ぐために△6三金と受けてきますがここから先手は6五歩から一気に攻めていきます。

・【第15図】以下の指し手

- ▲6五歩 △同歩 ▲7五歩 △同歩 ▲4五銀 △同銀 △同歩 △7四銀と角が取られそうですが
- ▲7一銀 △8三銀 ▲6二銀成 △同金 ▲8一飛
- 【第16図】と相手陣に飛車を打って桂香を取れば先手が指しやすい展開になります。

【第16図】



解説は以上です。最後まで読んでいただきありがとうございます。

# 空中楼阁 COLUMN

10回 タナト

『空中楼阁』とは、図のよう「玉が4段目にいる」、「中段玉は寄せられている」という格言を体現した超浪漫圍碁です。  
全筆者の中でも最も若く部員の彼が、書いた記事、一読ください！

オンライン版記事は  
こちらから↓







【第3図】



▲なし

△なし

これがこの戦法の理想形です。これで自陣整備が終わったので、ここから攻めていきます。また、相手が手待ちをしているのは、攻めても無理攻めになるからです。

【第3図】からの指し手

- △3一飛▲3五歩△3二飛▲3四歩
- △同銀▲3六飛△5三角▲5五歩【第4図】

【第4図】



▲歩

△

▲3五歩に対して△同歩とるのは▲同銀と取って攻めが加速するので取れません。同銀の場面から、こちらの攻め方は①▲5四歩↖▲4三銀と②▲2四歩↖▲2二歩の2つがあります。

①【第4図】からの指し手

- △同歩▲5四歩△同金▲3四飛
- △同飛▲4三銀【第5図】

【第5図】



▲なし

△

▲5四歩に対して角を逃げるのは、▲5五銀と出て後々▲6五歩△同歩▲6四歩のように拠点ができてこちらとしては満足です。そのため▲5四歩には△同金としますが、それには▲3四飛と飛車を切ってしまうと、△同飛に▲4三銀と打てば、飛車金両取りがかかって、金が取れば飛車と金銀の2枚換えてこちらが有利です。これが最善手順なのですが、攻め駒が成銀と持ち駒の金だけなので、ここから勝ち切るのは少し大変です。そこで2つ目の攻め方です。





- ② 【第4図】からの指し手
- △同歩▲同銀△5四歩▲4六銀
- △3一飛▲2四歩△同歩▲2二歩 【第6図】

【第6図】



今度は△同歩に対して▲同銀と取っていきま  
す。もちろんこれに対しては△5四歩と受け  
ますが、▲4六銀と引いておいて、もしここ  
で△3一飛のように手待ちをしてきたら、▲  
2四歩△同歩▲2二歩としていきます。△1  
三桂と逃げてても▲2一歩成で、これを取ると  
銀を取れます。

- 【第6図】からの指し手
- △3五歩▲同銀△同銀▲同飛
- △同飛▲同角 【第7図】

【第7図】



桂を逃げてても攻めが加速するだけなので、相  
手は△3五歩とするぐらいです。これには▲  
同銀△同銀▲同飛△同飛▲同角としていきま  
す。ここで後手の△3九飛に対しても▲4六  
角と引いておけば先手有しです。ここからは  
▲5二銀と打って何もしなければ金を取り、  
△6二金とされても▲4三銀成とすれば角を  
取れます。

今回は三間飛車を例に挙げていますが、この  
戦法は四間飛車に対しても有効で、早めに4  
六銀3七桂の形を作って、7九もしくは6八  
角型の銀冠に組めばいいです。ただ四間飛車  
の場合は三間飛車と違って、相手から早めに  
仕掛けてくる変化があるので紹介します。

- 初手からの指し手
- ▲2六歩△3四歩▲7六歩△4四歩
- ▲2五歩△3三角▲4八銀△3二銀
- ▲6八玉△4二飛▲5六歩△6二玉
- ▲3六歩△9四歩▲9六歩△7二玉
- ▲5八金△8二玉▲5七銀△7二銀
- ▲3七桂 【第8図】

【第8図】





【第9図】からの指し手

△5二金 ▲1六歩 △4六歩 ▲4五桂 【第10図】

【第10図】

今回はこいなぎ流銀冠について紹介させていただきました。この戦法は理想形に組めたらほぼ負けないくらい強いので、みなさんも指してみてください。ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

ここまでは【第1図】の飛車の位置が三筋から四筋に変わっただけです。次に相手が何もしなければ、▲4六銀と指して、理想形を目指して駒組みしていきます。

【第8図】からの指し手

△4五歩 ▲5五歩 【第9図】

【第9図】



相手から△4五歩と仕掛けてくる手に対しては、▲5五歩とするのがおすすめです。この手は、相手の角道を止めつつ、5筋の位を取るという意味があります。

【第9図】からの指し手

△5二金 ▲1六歩 △4六歩 ▲4五桂 【第10図】

【第10図】



▲1六歩は大事な一手で、▲4五桂のときに△1五角とされるのを防いでいます。この後は、△2二角や△4四角と角を逃げると▲4六歩と取ってにおいて、次に▲2四歩や▲5四歩があり、こちらが有利です。また、角を逃げずに△4七歩成としてくる手に対しては、▲同金としておけば依然角取りで、先手有利です。



# あとがき

さて、本冊子「灘校将棋部部誌 2025」はいかがでしたでしょうか。  
第79回 灘校文化祭 “weave” はまだまだ続きます！  
ぜひ他のブースやステージもお楽しみください！

文化祭後も何度も部誌を隅々まで味わってもらえたら嬉しいです。  
ぜひ、オンライン版の記事も楽しんでください！

来年以降の灘校文化祭、灘校将棋部につきましても、  
どうぞよろしくお願いいたします。

灘校将棋部部誌 2025 編集者 米田 遥希

## 2025 年度 灘校将棋部部誌

2025 年 5 月 2 日 初版発行

発行者 灘校将棋部 Email : nadashogiclub@gmail.com

代表者 小森龍太郎

編集者 米田遥希

印刷所 文化委員会 総務課 印刷班

製 本 灘校将棋部部員一同

本書は非売品です。

無断転載および転売を禁じます。

©2025 NADA Junior and Senior High School

SHOGI CLUB

万が一乱丁・落丁等ございましたら、文化祭当日、将棋部ブース(高校1年1組教室)にて、  
部員にご相談ください。お取替えできる可能性がございます。



## ONLINE VERSION CONTENTS

将棋の囲いについて	79回 安永悠太
現代角換わり腰掛け銀の仕掛け	79回 山根識
ゴキゲン中飛車を指そう!	80回 アゴキオ
空中楼阁	81回 タナト

などなど、オンライン版でもたくさんの記事が公開中です。

ぜひオンライン版もご覧ください!



オンライン版でも  
お楽しみください!